

動名詞を分解

動名詞

≒名詞
「～すること」

1.主語Sになる → 形式主語It

2.補語Cになる

4、5文型の目的語Oに
動名詞が来ることはない

3.目的語Oになる → 3文型: S V O

4.前置詞の目的語Oになる

having 過去分詞
慣用表現シリーズ (in V_{ing} など)

難 5.形容詞(限定用法)になる

動名詞と不定詞(名詞的用法)の区別が重要

動名詞	不定詞
過去 すでに して いて	未来 これから やる
継続 しばらく 続いて	
終了 やがて 終わる	
否定 マイナス イメージ	

- Oに不定詞だけが入る動詞V
- Oに動名詞だけが入る動詞V
- Oに不定詞と動名詞両方が入る動詞V

※動名詞の形式主語は不定詞ほど一般的でない
(= 慣用表現だったり、補語Cが特定の形容詞の場合に限られる)

1. 名詞なので主語Sになれる
 例) Keeping early hours is good for your health.
 S V C
 「早寝早起きをすることは体に良い」

2. 名詞なので補語Cになれる
 例) His hobby is drawing pictures.
 S V C
 「彼の趣味は絵を描くことだ」

動名詞の直前に名詞(所有格のみ)が入って意味上の主語を表すことがある
 例) Her son's speaking English surprised us.
 S V O
 「彼女の息子が英語を話すので私達は驚いた」

形式主語: 名詞が長いときはItで表して後ろへ持ってくる
 例) It is good for your health keeping early hours.
 形式主語
 例) (It was) nice meeting you. 「お会い出来てよかったです」
 これは別れ際のセリフで、会った瞬間だと(It was) nice to meet you. 「お会い出来て嬉しいです」となる

慣 There is no V_{ing} 「Vすることは(誰にも)出来ない」
 例) There is no knowing what may happen next.
 V S
 「次に何が起るか(誰にも)分からない」
 ↓元々は...
 There is no (way of) knowing what may happen next.
 「次に何が起るか分かる方法は(この世に)存在しない」

慣 It is no use | V_{ing} 「Vしても無駄だ」
 no good
 例) It is no use crying over spilt milk. 「覆水盆に返らず」
 ↓元々は...
 It is (of) no use crying over spilt milk. 「こぼれたミルクのことを嘆いても無駄だ」

慣 It is worth V_{ing} A 「AはVする価値がある」
 例) It is worth reading this book. 「この本は読む価値がある」
 ↓元々は...
 It is worth (while) reading this book. 「この本を読むことは前+名 (V) (O) 時間の価値がある」
 「~の価値「時間」がある」
 for a while 「しばらくの間」
 のwhileと同じ

of + (抽象名詞) = 形容詞
 所有 直訳「(抽象名詞)の性質を持つ~」
 例) This is a book (of importance). 「これは重要性を持つ本だ」
 of importance
 = important ⇕ ⇕ 同じ意味
 This is a (important) book. 「これは重要な本だ」
他の例
 of no use = useless 「無駄な」 of great help = very helpful 「とても有益な」
 of no good (=goodless) 「無益な」 of no value = not valuable 「価値がない」
利益 goodlessは昔の英語で今は使わない invaluableは「(評価できないほど)貴重な」の意なので注意

慣 A is worth V_{ing} 「AはVする価値がある」
 It is worth V_{ing} Aにおける動名詞の目的語Aを前に持ってくる事が出来る
 不定詞の「可難快危」型と同じ！
 例) This book is worth reading.
 前へ！ (V) 欠落
 「この本は読む価値がある」

3.名詞なので目的語Oになれる

例) Would you mind opening the window?
 (V) (O)
 「あなたはその窓を開けることを嫌がりますか？」
 ↓ 意識すると...
 「その窓を開けていただけませんか？」

所有格と目的格の区別について

my fatherのように比較的長い名詞が来る場合や口語表現では所有格より短く表現できる目的格が多い

動詞Vがneedやwantのとき目的語Oに来る動名詞は完全に名詞化していて、意味的には受け身になるので注意

例) This PC needs|wants|repairing. 「このPCは修理される必要がある」

- この場合のrepairingは「修理すること」ではなく、「修理」の意味
- being repairedとはいわない
- 意味的には受け身なので不定詞を用いる場合は「This PC needs to be repaired.」となる

動名詞の直前に名詞(所有格or目的格)が入って意味上の主語を表すことがある

例) Would you mind my[me] opening the window?
 (S) (V) (O)
 「あなたは私(私)がその窓を開けることを嫌がりますか？」
 ↓ 意識すると...
 「その窓を開けてもよろしいですか？」

4, 5文型の目的語Oに動名詞が来ることはない

例えば「Vすることを拒否する」の意味でrefuseを用いる場合①でrefuse to V、rejectを用いる場合②でreject Vingとなるように理屈だけだと区別が難しい例あり

動詞Vの①と②の区別は、ある程度体で覚えていくのも大切！

3文型: SVO

動詞Vによって目的語Oに動名詞を取るか不定詞(名詞的用法)を取るかが変化するので注意が必要！

①不定詞だけを目的語Oにとる動詞V

不定詞は未来「これからやること」を表すので未来志向の動詞Vと結びつきやすい

未来

例) I hope to go to America next year.
 「私は来年アメリカに行きたいと思う」

他のVの例

decide to V 「Vすることを決定する」
 mean to V 「Vするつもりだ」
 manage to V 「なんとかVする」
 pretend to V 「Vするふりをする」
 promise to V 「Vする約束をする」

②動名詞だけを目的語Oにとる動詞V

「これからやること」を表す不定詞とは対照的に動名詞は「1) 過去(既にしていて)、2) 継続(しばらく続いて)、3) 終了(やがて終わる)、4) 否定(マイナスイメージ、なこと)を表すのでそれらの意味とマッチしたVと結びつきやすい

過去

例) He admitted stealing the bicycle.
 「彼は自転車を盗んだことを認めた」

継続

例) He practiced playing the piano.
 「彼はピアノを弾く練習をした」

他のVの例

enjoy 「楽しむ」
 consider 「考える」
 imagine 「想像する」
 suggest 「提案する」

頭の中で「何度も繰り返す」イメージ

終了

例) He stopped taking pictures.
 「彼は写真を撮るのをやめた」

他のVの例

finish 「終える」 quit 「辞める」
 give up 「諦める」

否定

例) I avoided meeting him.
 「私は彼に会うのを避けた」

例) I can't help crying.
 「泣かないではいられない」

他動詞stopは動名詞しか目的語にとらないので以下の例文だとstopは自動詞「立ち止まる」でtoは副詞的用法の「目的」になる

例) He stopped to take pictures.
 「彼は写真を撮るために立ち止まった」

他のVの例

miss 「し損なう」 mind 「嫌がる」 escape 「避ける」
 deny 「否定する」 put off/postpone 「延期する」

この場合のhelp=avoid「避ける」。元々「障害を避けてあげる」からhelp「助ける」の意味が生まれた

③動名詞と不定詞の両方を目的語Oにとる動詞V

begin「始める」やlove「好きである」などは動名詞と不定詞のどちらであっても意味に大差ない注意が必要なのは動名詞と不定詞で意味が異なる動詞Vである

その際、動名詞は「過去(既にしていて)」、不定詞は「未来(これからすること)」を表す

remember/forget to V 「(これから)Vするのを忘れる/覚えている」
 remember/forget Ving 「(過去に)Vしたのを忘れる/覚えている」

regret to V 「残念ながらVする」
 regret Ving 「(過去に)Vしたのを後悔する」

直訳「(これから)Vすることを後悔する」

try to V 「~しようとする」 try Ving 「試しにVしてみる」

4. 名詞なので前置詞の目的語Oになれる

例) She is proud of being a doctor.
前 + 名

「彼女は医者であることを誇りに思っている」

不定詞(名詞的用法)には
なかった点!

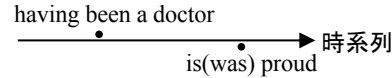
動名詞の直前に名詞(所有格or目的格)が入って
意味上の主語を表すことがある

例) She is proud of her son (her son's) being a doctor.
(S) (V) (C)

「彼女は息子が医者であることを誇りに思っている」

動名詞がメインの動詞が表す時より前の時
を表す場合は「having 過去分詞」の形になる

例) She is(was) proud of having been a doctor when she was young.



「彼女は若い頃医者であったことを誇りに思っている(思っていた)」

難 5. 名詞なので形容詞(限定用法)になれる

一見矛盾しているように感じるが...

実は名詞そのものが形容詞として働いて
後ろの名詞を修飾することがある

例) a (baseball) game 例) a (tennis) court

「野球の試合」 「テニスコート」

動名詞の場合、修飾する名詞の用途
や使用目的を表す形容詞になる

例) a (smoking) room = a room for smoking

「喫煙室」 「喫煙するための部屋」

例) a (sleeping) train = a train for sleeping

「寝台車」 「寝るための車両」

*** 現在分詞との違いに注意!**

a sleeping baby の場合、sleepingは現在分詞なので
「眠っている赤ちゃん」となる

慣 慣用表現シリーズ

➡ 「前置詞+名詞」のかたまりで意味的には形容詞や副詞になる

① in V_{ing} 「Vするときに」
包围 (= when S V)

② on V_{ing} 「Vするとすぐに」
接触 (= as soon as S V)

③ feel like V_{ing} 「Vしたい」
(前)「~のように」

④ go V_{ing} 「Vしに行く」

元々はgo on V_{ing} で go on a picnic
「ピクニックに行く」などと同じだったが
今はgo on V_{ing} は「Vし続ける」
の意味になり、こちらはonが消えた

⑤ How about V_{ing}? 「Vするのは
どうですか?」

aboutの前の「do you think」が省略

⑤ (名詞) of one's own V_{ing} 「自分でVした(名詞)」

of + (抽象名詞) 「(抽象名詞)の性質を持つ~」

例) This is a picture (of his own painting).

「これは彼自身が描いた絵だ」

直訳「これは彼自身が描くという性質を持つ絵だ」

⑥ inの省略シリーズ 元々はin V_{ing} 「Vするときに」

be busy (in) V_{ing} 「Vするのに忙しい」

spent [お金・時間] (in) V_{ing} 「Vするのに [お金・時間]
を費やす」

have difficulty/trouble/a hard time (in) V_{ing} 「Vするのに苦労する」

be careful (in) V_{ing} 「注意してVする」

⑦ It goes without saying that ~ 「~なのは言うまでもない」

状況のIt

直訳は「~を言わなくても状況は進む」

⑧ to V_{ing} シリーズ 前置詞toは「方向・到達」のイメージ「に対して」

look forward to V_{ing} 「Vすることを楽しみに待つ」

object to V_{ing} 「Vするのに反対する」

直訳「V_{ing} に対して
前向きに見る」

When it comes to V_{ing} 「Vすることになると」

状況のIt

直訳「状況がV_{ing} に近づくと」

with a view to V_{ing} 「Vするために」

直訳「V_{ing} に向かう目的を持って」

What do you say to V_{ing}? 「Vするのはどうですか?」

直訳「V_{ing} に対してあなたは
何て言いますか?」

A is used[accustomed] to V_{ing} 「AはVすることに慣れている」

get 「AはVすることに慣れる」

use(accustom) A to B 「AをBに慣らす」の受動態